



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460 JAPAN

国際会長標語	「奉仕による成長」
アジア会長標語	「無私の奉仕で輝く未来へ」
西日本区理事標語	「ベクトルを合わせ、地域と共に活動を」
中部部長標語	「ワイズライフを楽しみましょう 例会を潤いの場に・・・」
クラブ会長標語	「Lets get together and have fun」

2003年3月号

———<今月の聖句>———

若者を歩むべき道の初めに教育せよ。年老いてもそこからそれることがないであろう。

[箴言22:6]

例会出欠・遅刻の連絡は「ご出欠連絡書」によりお願いします

2003年3月例会ご案内

◎第一例会

と き : 3月6日(木)
 ところ : 名古屋YMCA
 時 間 : PM7:00~
 卓 話 「おたのしみに」
 ドライバー 佐々木

第一例会は弁当を注文します。
 出欠は必ずドライバーまで連絡してください。

◎第二例会

と き : 3月20日(木)
 ところ : 名古屋YMCA
 時 間 : PM7:00~

◎その他

サンドルフラブ20周年訪問

と き : 3月7日(金)~9(日)
 ところ : ソウル~インチョン

第五回Y・Yフォーラム

と き : 3月9日(日)
 ところ : 生駒山麓公園ふれあいセンター

2月例会	例 会 出 席 状 況				B Fポイント		クラブファンド(2月)	
	在席者	18名	第1例会	16名	当月・切手		ニコBOXノート	
例会出席者	18名	第2例会	15名	当月・現金		感謝ファンド		
当月出席率	72.2%	部 会 他	名	累 計		累 計		

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

=強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う=

2月第一例会報告

ドライバー 三井

と き : 2月6日(木)
と ころ : 名古屋YMCA
時 間 : PM7:00~



1. 総会

次期役員について規定により下記の担当役割が当日決定されましたので報告いたします。

会 長	吉田 正
副会長	松原 誠
会 計	早川 政人
書 記	佐々木 忍
EMC	阿部 一雄・坂倉 洋
YMCA サービス	
	坂口 功祐・坂野 清治
IBC	佐藤 寿晃・三井 秀和
C S	井川 幸吉
プログラム	服部 庄三・山口 一徳
B F	早川 政人・坂倉 洋
広 報	阿部 一雄
ファンド	早川 政人
ブリテン	荒川 恭次・佐々木メネット
監 査	佐藤 寿晃
連絡主事	鈴木 一弘

2. 意見交換

現状の厳しいクラブ環境について 10周年行事も終わり今、各メンバーが感じていることについて意見交換をいたしました。

今までのグランパスクラブないしワイズメンズクラブとして大きなイベントをそれぞれ成し遂げた今、各自がこれまでのクラブの進んできた道、またメンバーとして感じていることについて率直な意見交換をしました。

グランパスも 10歳となり比例してメンバー自身も年齢を重ねいくつかの大きなイベントを成功してきた今、少々疲れてきた感があるのではとの意見がありそれについて熱い討論がありました。メンバーの退会により減少が続いていることや、今後のクラブ活動方針として大筋は決まっているフィリピンワークキャンプのバックアップのクラブとしての関わり方(先日の成功裏に終わった

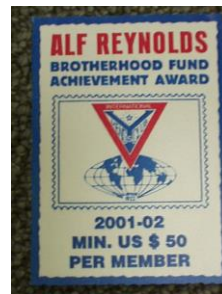
OB会の組織化についてと具体的な活動方針等)、又基本的なワイズメンズクラブとしてYMCAボランティア活動との連携等、熱い意見が続出しました。



辛口ですがクラブ運営の基礎となる中長期の指針の不確実性とメンバー各位にそれらの問題課題として共有化が浸透していないのが問題ではと思います。

私感ですが現会長の佐藤会長と次期会長の吉田兄には特に強力なリーダーシップを発揮していただき今後も各メンバーも頑張りますのでより良いクラブ運営を期待します。

また、当日名古屋クラブの木本氏と青木氏、平野氏のメイクアップ参加があり特に木本氏の名古屋クラブにての長期 100%クラブ例会出席の意義について考えさせられる貴重な話を聞いて一同考えられた次第でした。



SOスキートレーニング

2月8日~9日、スペシャルオリンピックスのスキープログラムにコーチとして参加しました。

我がグランパスも協賛会員となっているスペシャルオリンピックス(SO)について復習してみましょう。

SOとは、知的発達障害のある人々(アスリート)の自立と社会参加を目指し、日常的なスポーツプログラムと、その成果の発表の場である競技会を提供する民間ボランティア運動です。

1963年に故ケネディー大統領の妹ユニス・ケネディー・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して開いたディ・キャンプがSOの始まりです。日本では1980年に「スペシャルオリンピックス日本委員会」がSO国際委員会に加盟、199

1年には世界大会に参加、現在では各県に地区組織が設立され多数のボランティアが活動を支えています。



メンバーと記念写真（右端が筆者）

さて、吉田兄（ヘッドコーチ）からお誘いがあり、スキー指導には経験があったため気楽に引き受けたはいいが、その結果は……。

知的発達障害のある人（アスリート）とは、街で見かける程度で実際には接した経験が全くありません。前夜、吉田兄から受け取ったテキストを読むにつれ、これから始まる未知の経験に対する不安と期待が交差してなかなか寝付かれない一夜を過ごしました。集合場所の金山駅でアスリートとその家族を迎えたことで、一抹の不安がフッと消えました。彼らは非常に元気で礼儀正しく好感が持てたからです。



スキー前の準備体操です

しかし、スキー指導となればまた壁です。アスリートのスキーレベルは個々に違うため、限られた数のコーチでどのような班編成で指導するか。現地でのスタッフミーティングはじっくりと進められました。で、私はSOコーチ初心者ということで、上級班を持つこととなりました。できない者をできるようにするには大きなエネルギーを必要としますが、できる者をレベルアップするには経験の蓄積と少しのアドバイスがあればよいから、相手がアスリートとなれば特に下の班はベテランのコーチが必要となります。

今回はコーチ数も不足しており、ご家族に協力を依頼することで何とか切り抜けたようです。私

の上級班も3名のアスリートでしたが、スキーレベルに若干の差があったため、男性のご家族に協力していただき、何とか役目を果たすことができました。



夜の楽しいプログラム風景

SOはスキーだけでなく、サッカー、ボーリング等多岐にわたっています。コーチも不足していることから、グランパスクラブとして具体的な活動の一つとしてはいかがでしょうか。最後にSO日本会長 細川佳代氏の言葉で締めくくります。

「日本の社会にはまだまだ彼らへの無理解、偏見、差別が存在します。彼らが特定の狭い社会で生きるのではなく、もっと一般社会で普通の暮らしができるよう目に見えない障害を取り払うのがSO活動の目標です。だから私たちは一般社会で民間活動としてとしてこのSOを広げて行きたいと思います。行政主導の福祉でなく、民間主導のボランティア革命、世直し運動です。ぜひとも力を貸してください。」

フィリピンワークキャンプ

第22回と23回PWCに参加した山田周作君が、この秋フィリピンを再訪しました。彼から手記が寄せられましたので紹介します。 鈴木

とりあえず『もう一回フィリピンに行きよ』という一年半越しの約束を子供達やお世話になった人達とはたせてよかったなあと思う。

でも村にたどり着くまで本当に大変だった。空港に着いて迎えに誰もきてない。マニラワイのスタッフメールで知らせておいたはずなのに、何時間待っても来ない。

仕方がないからタクシーに乗り一人でマニラYMCAまで行くと唖然としてしまった。ホテルにクローズの看板がかかっている誰もいない。後でもう一度行き分かった事だが客が全然来なくて潰れてしまったらしい。ホテルは一応オフィスとして使っているみたいだが電気がなく、夜になるとロウソクを明かりとしている。

その日は自分でホテルを捜し、タクシードライ

バーと交渉してなんとか村まで辿り着いた。村に着いて思ったことは、子供たちはみんな成長していただけたか分からないコもたくさんいた。でも以前と変わらず接してくれバスケットをしたり歌をうたったり本当に楽しかった。

でも今回は ただ楽しいだけでなくかなり深いところまで見えてきてしまった。村の抱える問題、貧富の差がかなり激しい事。一回7ペソのジープ代が払えなくて学校に行けないコも沢山いると思いきや町を歩けば2万5千ペソの携帯を売ってるし電化製品も日本と値段が変わらない。いったい誰が買うねん??と疑問

ちなみに友達のセールスレディーの日給はなんとたったの百ペソ。ミスタードーナツは一個20ペソ 一日働いて5コしかかえない。日本だったら日給で何十コと買えるのに、ガソリン代は日本の半分でもバス代は日本の10分の1以下トライセクルやタクシーの運ちゃんは一泊いくら稼げるんだろう?。給料と物価がつりあっていない。庶民からすれば100ペソは大金だそうだ。みんな日本に行き稼ぎたいって言うのも納得だ。もちろんいい所も改めて見えてきた。

家族のつながり友達の絆がすごく深い事。近所のおばさんが他の家の子供達と一緒にになってトランプを楽しんでる。ちょっと裕福な家には貧しい子供達がきて一緒に食事をしている。村がみんな家族みたいだ。

いつもフィリピンに行くとき考える事はどっちの国が幸せかという事?日本は金がある しかしみんなかなり忙しく親は子供と接する時間がなかったり一家団欒なんてゆっくりできる家庭はどれぐらいあるのだろうか?子供は毎日、塾 ピアノ 英会話 スイミング それに受験と本当に忙しい遊ぶ時間もない。そのくせ自分の事は一人じゃなんにもできない。テレビやゲームばかりで遊び方を知らない。目の輝きもあまりない。

フィリピンは金はない。でも沢山の友達や家族といつも接する事ができる。目はものすごく清んでキレイな目をしてとても純粋。みんな本当に楽しそう。時間はゆっくり流れ何かに追われることなくのんびりしてる。

いったいどっちが幸せ??
あっちに行くと日本にいる時より何十倍も笑えるんだよね。何も無いのにさ。あとは言葉の壁もあった。

英語を話せる人と話せない人の差がかなり激しい。高熱や下痢で死にそうになったりハプニング続きでかなり大変だったけど 行ってよかったまた行きたいって思う。

なんだか不思議な魅力があるんだよね。

フィリピンワークキャンプ支援については継続することになりました。山田君の手記にもあるように、もっとたくさんお若者の感動を得るために、グラン

パスの地道な努力が必要です。とりあえずキャンパーが見てくれるホームページの整備から始めてはいかがでしょうか。

第二例会報告

日時：2003年2月20日（木）
午後7時～午後8時30分

会場：名古屋YMCA 407号室

出席：佐藤壽晃、阿部一雄、荒川恭次、坂倉 洋、坂口功祐、鈴木一弘、服部庄三、早川政人、坂野清治、吉田 正

10/16 第二例会出席率63%

報告・協議

1. 第6回西日本区大会参加登録について
日程：2003年6月14日（土）～15日（日）
会場：彦根市文化プラザ
確認事項：3月第1例会（3/6）にて出席確認を行い、会長よりクラブにて一括申し込みをする。尚、登録費12,000円（懇親会参加者18,000円）を同時に徴収しますので持参下さい。
※3月31日まで登録すると上記費用ですが、これ以降は懇親会費用が4,000円高となります。
2. 3月第1例会について
佐々木君がドライバーなので、会長より連絡し、準備を進めることを確認した。尚、PWCのOBがフィリピンを訪問したこと、現在Y専門学校生2名が埼玉Yのワークキャンプに参加している等の話題提供があり卓話者としてはどうかとの意見があった。尚3月例会は弁当があるので必ず出欠席をドライバーまで申し出ることを確認した。
3. 4月特別プログラム「潮干狩り」について
潮見表より日程候補として4月29日（祝）とした。昨年同様、国際こども学校関係者を招待するとし吉田が先方と調整をすることとした。
○国際こども学校招待に関しての確認事項
・ 昼食はワイズが準備する・潮干狩り入場料負担については予算と調整する（一部又は全額）・会場を知多河和近辺とし名鉄を利用する
4. 3月ファミリースキーの参加状況について
若干の申し込みはあるが、参加予定者はメール&FAXで必ず申し込むこととした。
5. 新年度7月の一泊例会について
日程を7月5日（土）・6日（日）とし、会場を涼しい温泉でとの希望があり、次期会長がこの意向にそって調整することとした。
6. YMCAより報告
・ 人事異動について